

「からまつ」のようにきびしい自然に耐え、どっしりと大地に根をおろし、すくすくと育つ西春別小学校の子ども



別海町立西春別小学校 学校だより

からまつ No. 13

令和5年3月24日発行 校長 太田 等

学校の教育目標

知 よく考え表現する子

徳 心豊かで思いやりのある子

体 進んでやりぬくたくましい子

学校と家庭地域の共有が鍵！

太田 等

今月17日、令和4年度卒業証書授与式を挙行了しました。制服を身にまとった5名の卒業生は、凛々しい姿で、胸を張ってこの西春別小学校を旅立って行きました。5名の卒業生の一年間のリーダーシップは、本校の良き伝統として、下級生にしっかりと伝わっていくものと思います。誠におめでとうございました。

本日、令和4年度の本校の教育活動が全て修了しました。今年度は、「自分の考えをもち、豊かに表現できる子」を、「目指す子ども像」として教育活動を推進してきました。子どもに「自分の考えをもたせ、それを豊かに表現できるようにさせる」これは、大人でも大変に難しいことです。しかし、それを身に付けることが、学校教育の責務です。子どもに、「考えなさい」「書きなさい」と言っただけでは、できるわけがありません。

「考える方法」や「書く方法」の基礎・基本の知識と技能を教えなければなりません。

スポーツにしろ、武芸にしろ、はじめからできる人はいません。必ず、基礎基本を習ってそれを自分のものとし、そして、自分なりに応用していくことによって生きる力は身につけていきます。そのために、教職員は、この1年間に多くの時間を割いて「研修」というものを行っています。この研修の中で、教師は、授業を振り返り、子ども達がどの程度できたか、課題は何かを把握し、そして、それを次への改善につなげます。そして、更に大事なことは、それらを、学校と保護者がしっかりと共有することです。保護者が、学校で、それぞれの教科学習にあって、基礎基本が何であり、それらが、どのように、子ども達に習得され、更には、子ども達が、それらをどのように活用されているか。ここまで把握する必要があります。これを把握していれば、自分の子どもが、何ができて、何ができないのか、どこでつまづいているのかを知ることができます。学校に全てお任せの時代はもうすでに終わりました。

AIやスマホのように、科学技術は益々進化し、時代も物価高や低金利等、コロナ前とは、全く違う時代背景となり、これからは更に変化が激しくなっていくと言われます。

これからの子どもたちは、自分の頭で、しっかりと善悪、利損、美醜などを判断し、そして、あらゆる人の言葉を含め、情報の本質を読み取って、それらを自分の生き方に生かし、自分の力で充実させていかなければなりません。

学校は、そうした力を子ども達につけさせるために存在します。今年度が本日で終了となりますが、来年度は、それぞれの子ども達が新しい学年でスタートします。

人生100年時代、生涯学習の時代です。コミュニティスクールとも協働しながら、学校と地域社会、そして、保護者がしっかりと目標と内容と子どもの姿を共有し、社会に開かれた学校を創っていただきたいと思います。

地域、保護者の皆様、この一年、誠に有難うございました。